

数 学

数学科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数量や図形の基礎的内容の習得と計算・処理の力の定着を図る。	習得した知識及び技能を活用して問題を解決する力を育む。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<p>ア 基本的な計算方法は理解できているが、計算ミスや最後まで計算を行えない生徒が見られる。また、既習事項を次の単元では忘れてしまっている傾向がある。</p> <p>イ 文章問題に対して苦手意識をもっている生徒が多い。そのため、文章を読み取って式化することが苦手な生徒が多い。</p>	<p>ア 反復練習を行い、自分の途中式を見返しどこで計算ミスをしたのかを振り返る習慣や計算を最後までやりきる習慣を付けさせる。</p> <p>イ 生徒が頭の中でイメージしやすい例題を扱い、理解を深めていく。</p>	2,3学期	
第2学年	<p>ア 基礎的な計算力の習得に多くの時間と努力を要する生徒が多く見受けられる。そのため、習ったばかりの内容について理解が不十分な生徒が多い。</p> <p>イ 数式に文字を用いた一般化に対する理解に課題があり、文字を使った計算や抽象的な表現に苦手意識をもつ生徒が多い。</p>	<p>ア 基礎計算力の定着を図るため、授業の最後に5分間の小テストを取り入れる。反復練習を行うことで、計算力を徐々に向上させることを目指す。</p> <p>イ 文字式の理解を深めるため、具体例を多く取り入れ、実生活と結び付けて指導する。例えば、簡単な問題を文字式で表現できる方法を段階的に指導し、生徒の理解を促進する。</p>	2,3学期	
第3学年	<p>ア 領域別確認テストの結果から、幾何分野において都平均と比べて下回る部分が散見される。</p> <p>イ 式の利用や証明問題など、考えを数式や言葉で表現することに苦手意識をもつ生徒が多い。</p>	<p>ア 具体物を用いて、観察・実験・操作する作業を通して知識の習得を促す。</p> <p>イ 途中式を書く必要がある問題を授業で多く扱い、説明する機会も授業内で設ける。</p>	2,3学期	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<p>[第1学年] 平面図形、空間図形などタブレット端末を用いて、図形を自分の意思で動かすことで学びを深める。【個別】</p> <p>[全学年] ロイロノート(学習支援アプリ)を用いて発問の解答を提出させるなど、生徒の意見や考え方を個人で振り返ったり全体で共有したりする活動を行う。【協働】</p>	<p>[全学年] 各単元の終わりにレポート課題を提示することで、まとめる力を付けさせたり、学び方を振り返らせたりし、次章の内容につなげる。基礎クラスを中心に kahoot!などを用いて、関心を引き出す工夫をする。</p>

